

2025 年度豊岡市介護予防・
日常生活圏域二一ズ調査
介護・在宅医療意向調査
在宅介護実態調査
報告書(抜粋版)

2026 年 5 月

豊 岡 市

I 調査の概要

1 調査の目的

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査：高齢者の生活の状況や心身の状態などについて把握し、2027年度より始まる「豊岡市老人福祉計画・第10期介護保険事業計画」の策定に向け、基礎資料として、介護予防などに関する事業の推進に活用します。

介護・在宅医療意向調査：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査とあわせ、在宅生活を継続するにあたっての意向及び課題等を把握し、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査とあわせ、「豊岡市老人福祉計画・第10期介護保険事業計画」の基礎資料とします。

2 調査対象

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査：在宅で生活している65歳以上の高齢者のうち、要介護認定を受けていない方 3,000人

介護・在宅医療意向調査：在宅で生活している65歳以上の高齢者のうち、要介護認定者 1,000人

在宅介護実態調査：在宅で生活している65歳以上の高齢者のうち、要支援及び要介護認定者

3 調査期間

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査：2026年1月21日（水）～2026年2月20日（金）

介護・在宅医療意向調査：2026年1月21日（水）～2026年2月20日（金）

在宅介護実態調査：2025年12月～2026年3月

4 調査方法

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査：郵送配布、郵送回収

介護・在宅医療意向調査：郵送配布、郵送回収

在宅介護実態調査：認定調査の訪問時に、123人の方に対して聞き取りにより実施

5 回収状況

調査票の種類	配布数	回収数	回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	3,000件	2,035件	67.8%
介護・在宅医療意向調査	1,000件	508件	50.8%
在宅介護実態調査	—	123件	—

6 調査結果の表示方法

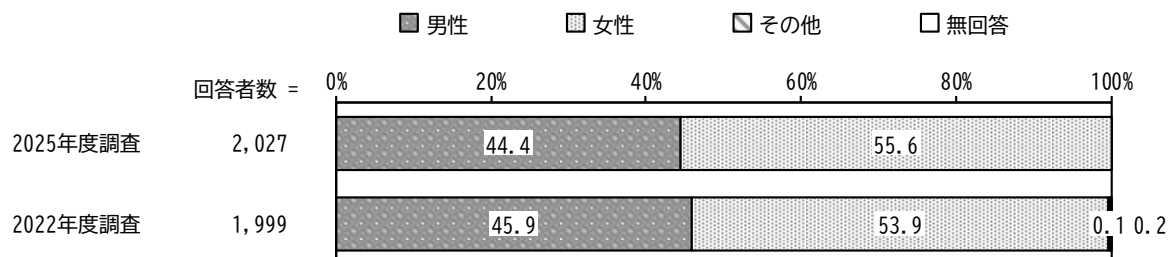
- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

Ⅱ 調査結果

1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

問1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

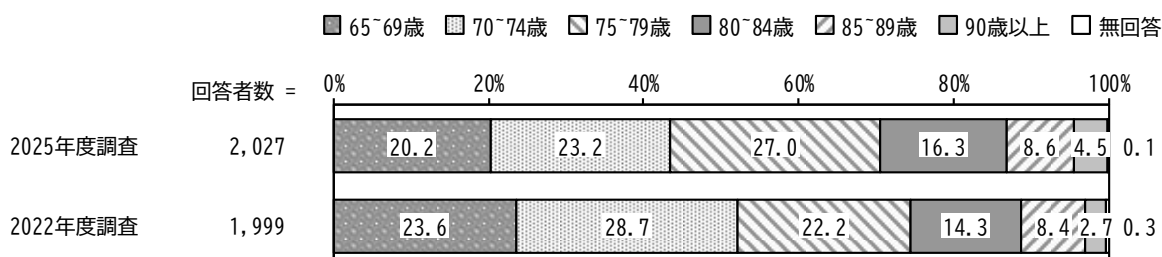
「男性」の割合が44.4%、「女性」の割合が55.6%となっています。
2022年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問2 あなたの年齢 (2026年1月1日現在)をお答えください。(1つに○)

「75~79歳」の割合が27.0%と最も高く、次いで「70~74歳」の割合が23.2%、「65~69歳」の割合が20.2%となっています。

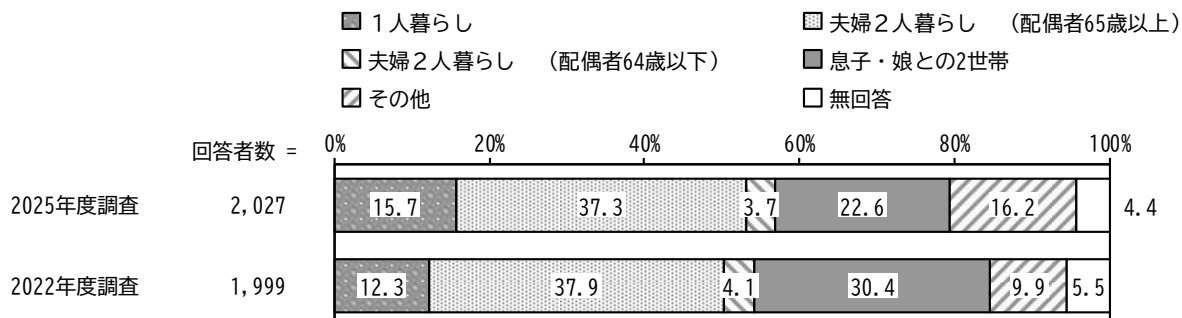
2022年度調査と比較すると、「70~74歳」の割合が減少し「75~79歳」の割合が増加しています。



4 あなたの世帯の状況をお答えください。(1つに○)

「夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)」の割合が37.3%と最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」の割合が22.6%、「1人暮らし」の割合が15.7%となっています。

2022年度調査と比較すると、「息子・娘との2世帯」の割合が減少しています。

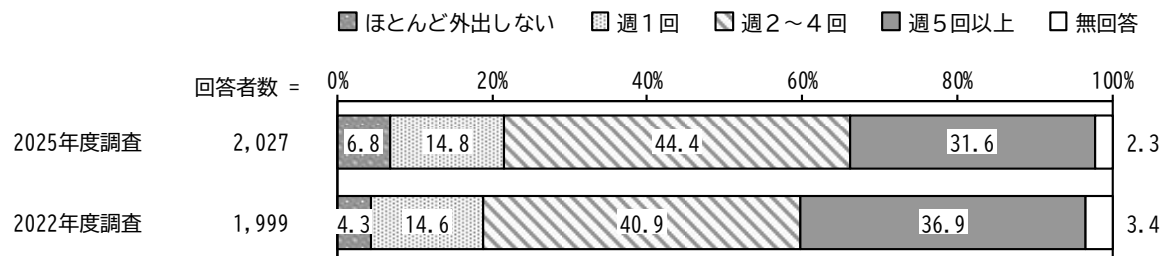


日ごろの生活について

問7 あなたは、週に1回以上は外出していますか。(1つに○)

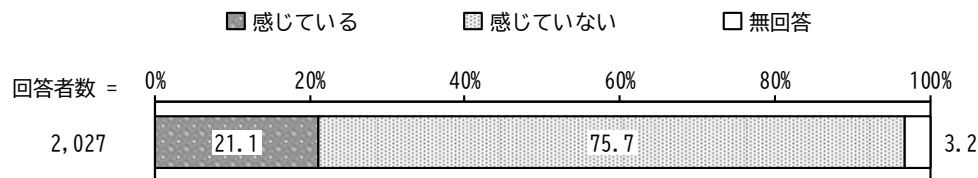
「週2～4回」の割合が44.4%と最も高く、次いで「週5回以上」の割合が31.6%、「週1回」の割合が14.8%となっています。

2022年度調査と比較すると、「週5回以上」の割合が減少しています。



問11 あなたは、ご自宅からの移動に困難を感じていますか。(1つに○)

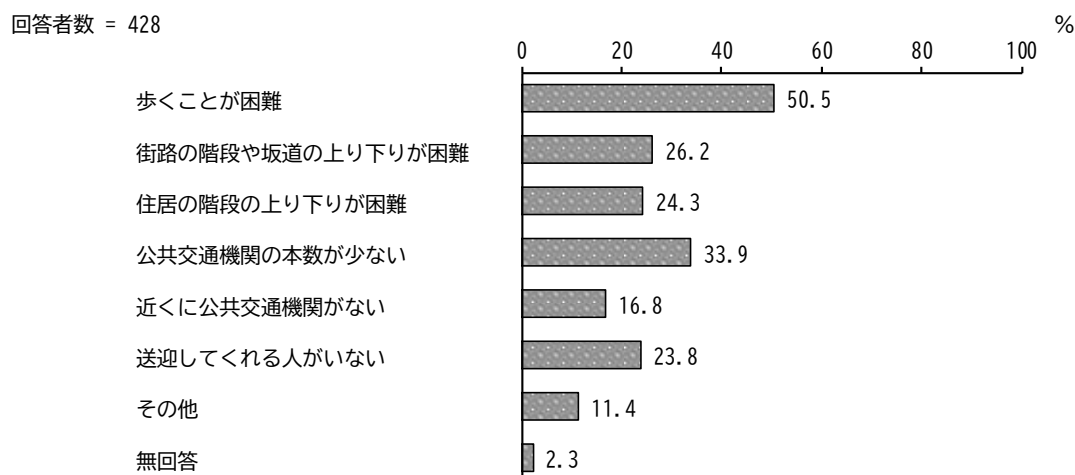
「感じている」の割合が21.1%、「感じていない」の割合が75.7%となっています。



問12は問11で「感じている」に○をつけた方におたずねします。

問12 移動に困難を感じている理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「歩くことが困難」の割合が50.5%と最も高く、次いで「公共交通機関の本数が少ない」の割合が33.9%、「街路の階段や坂道の上下りが困難」の割合が26.2%となっています。

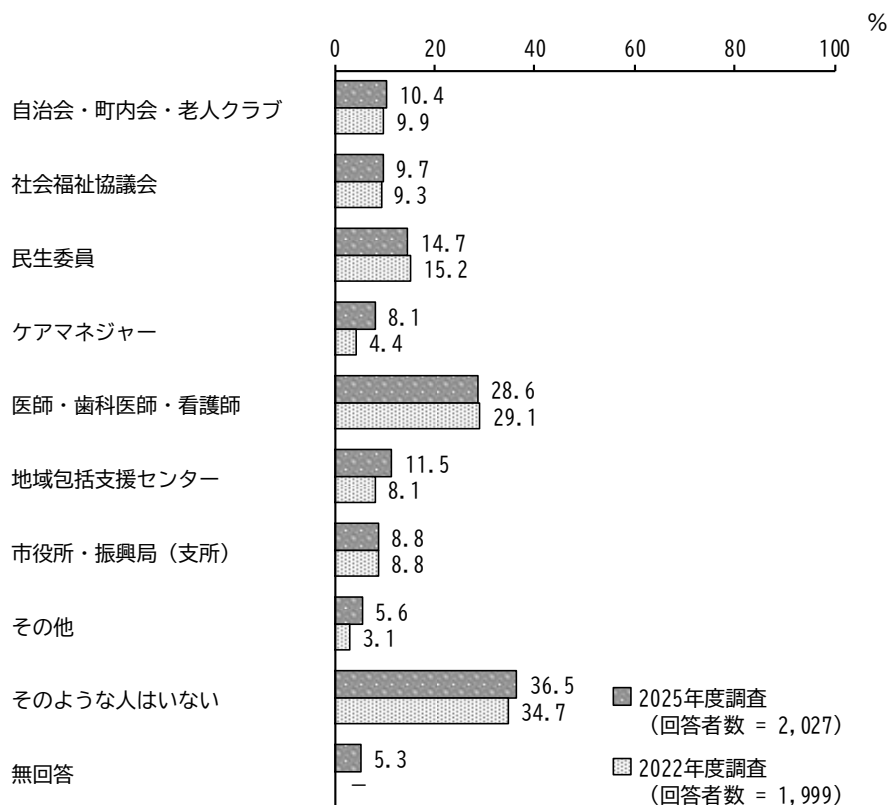


たすけあいについて

問 31 あなたが、家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

「医師・歯科医師・看護師」の割合が 28.6%と最も高く、次いで「民生委員」の割合が 14.7%、「地域包括支援センター」の割合が 11.5%となっています。

2022 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

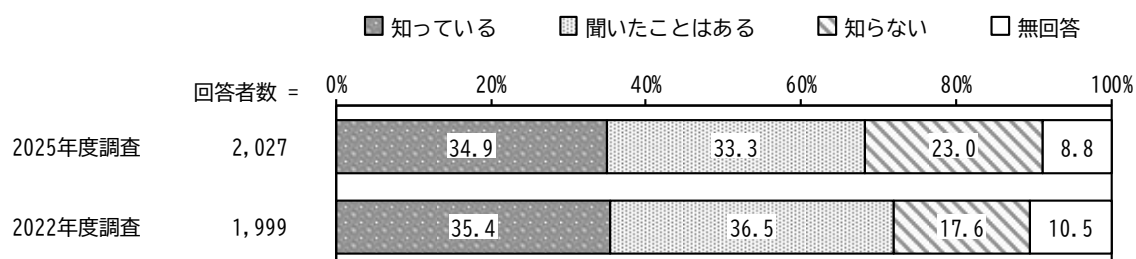


在宅医療について

問 63 あなたは、「在宅医療」について知っていますか。（1 つに○）

「知っている」の割合が 34.9%、「聞いたことはある」の割合が 33.3%、「知らない」の割合が 23.0% となっています。

2022 年度調査と比較すると、「知らない」の割合が増加しています。

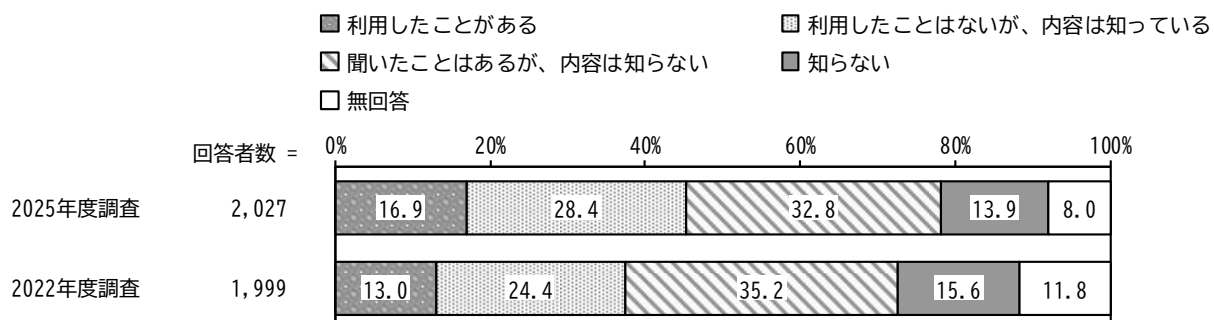


問 64 あなたは、在宅医療を支える仕組みとして、以下のようなサービスがあることを知っていますか。また、あなたもしくはあなたの家族が利用されたことはありますか。（A～G について、それぞれ1 つに○）

A. 訪問診療（医師の訪問）

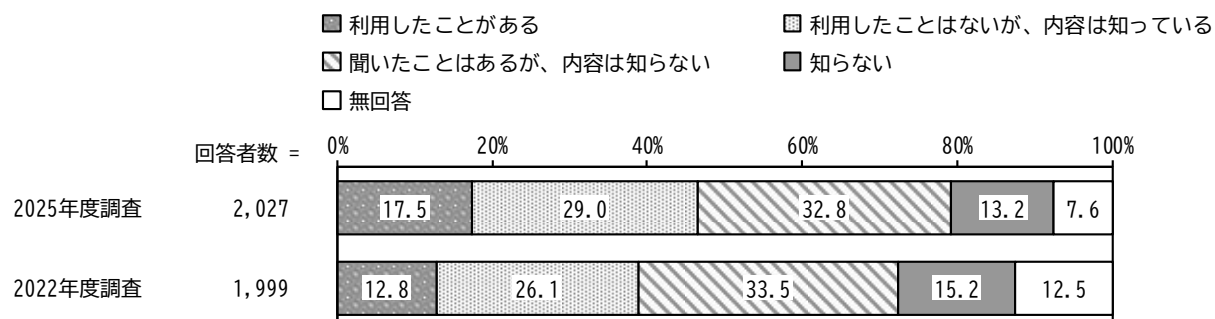
「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が 32.8%と最も高く、次いで「利用したことはないが、内容は知っている」の割合が 28.4%、「利用したことがある」の割合が 16.9%となっています。

2022 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



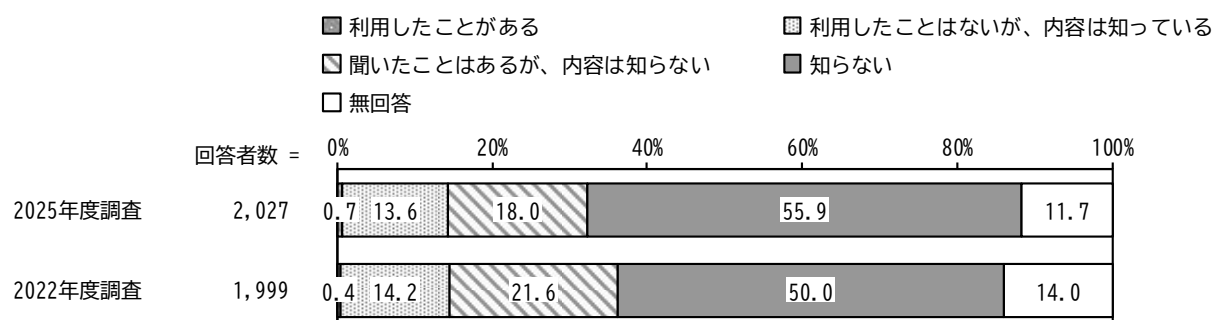
B. 訪問看護（看護師の訪問）

「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が 32.8%と最も高く、次いで「利用したことはないが、内容は知っている」の割合が 29.0%、「利用したことがある」の割合が 17.5%となっています。
2022 年度調査と比較すると、「利用したことがある」の割合が増加しています。



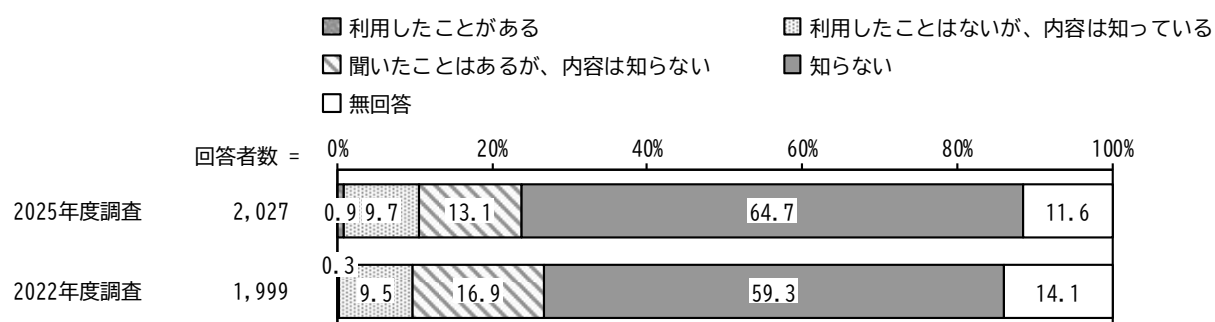
C. 訪問歯科診療（歯科医師の訪問）

「知らない」の割合が 55.9%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が 18.0%、「利用したことはないが、内容は知っている」の割合が 13.6%となっています。
2022 年度調査と比較すると、「知らない」の割合が増加しています。



D. 薬剤師の訪問指導

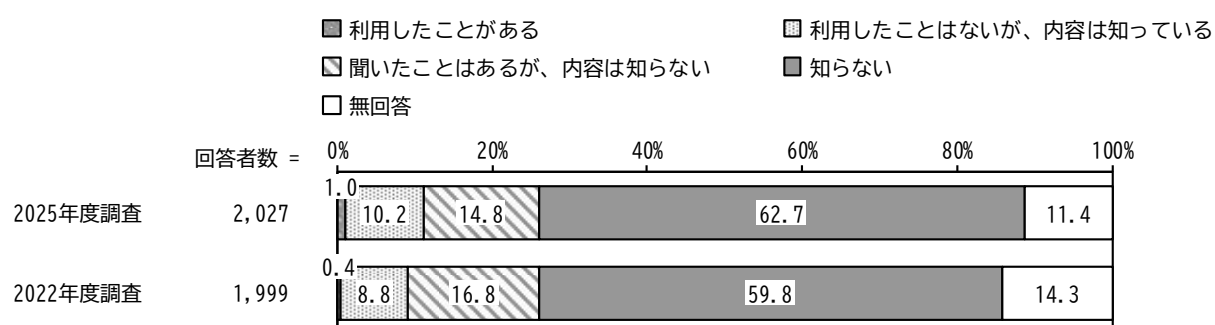
「知らない」の割合が 64.7%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が 13.1%となっています。
2022 年度調査と比較すると、「知らない」の割合が増加しています。



E. 管理栄養士の訪問指導

「知らない」の割合が 62.7%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が 14.8%、「利用したことはないが、内容は知っている」の割合が 10.2%となっています。

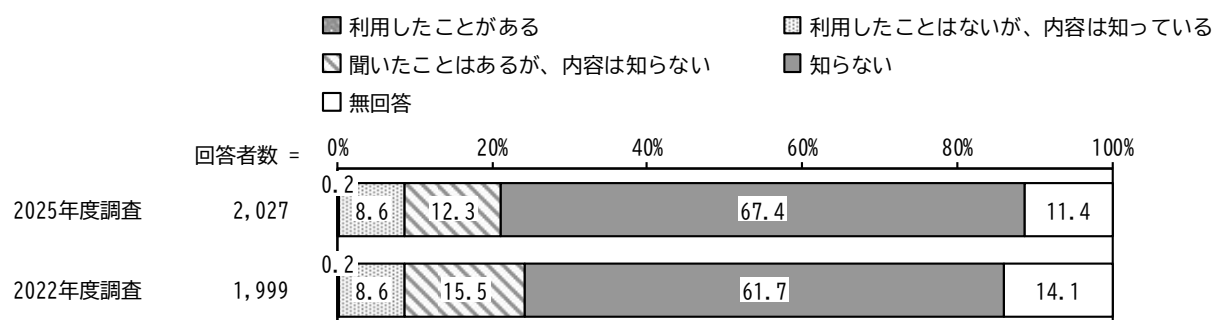
2022 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



F. 歯科衛生士の訪問指導

「知らない」の割合が 67.4%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が 12.3%となっています。

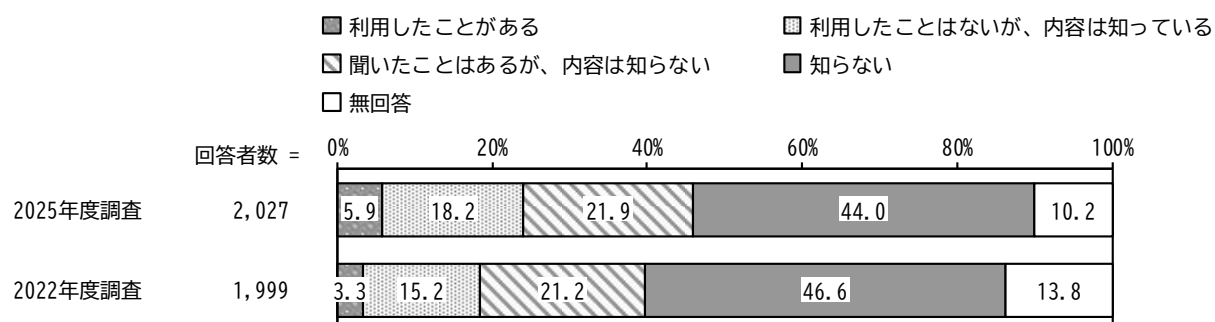
2022 年度調査と比較すると、「知らない」の割合が増加しています。



G. 訪問リハビリテーション（リハビリスタッフの訪問）

「知らない」の割合が 44.0%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が 21.9%、「利用したことはないが、内容は知っている」の割合が 18.2%となっています。

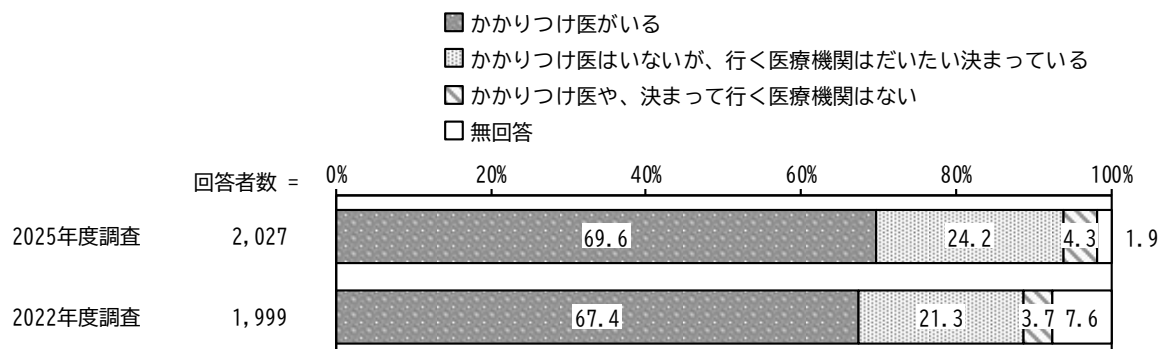
2022 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 66 あなたには、健康状態や病気のことを相談する身近な「かかりつけ医」がいますか。
(1つに○)

「かかりつけ医がいる」の割合が 69.6%、「かかりつけ医はいないが、行く医療機関はだいたい決まっている」の割合が 24.2%、「かかりつけ医や、決まって行く医療機関はない」の割合が 4.3%となっています。

2022 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

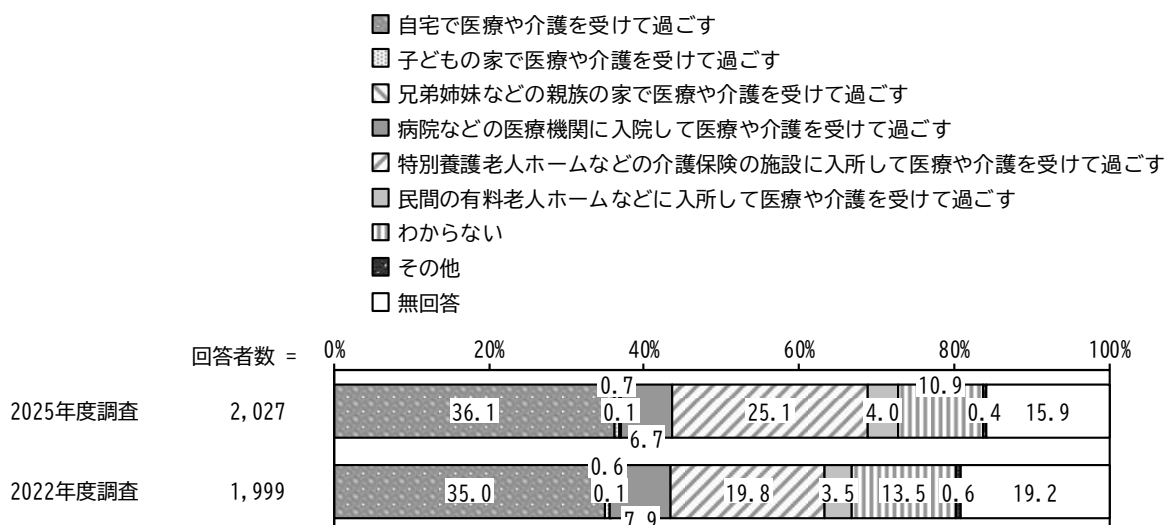


問 69 あなた自身が、高齢期に、医療や介護が必要になった時、どこで過ごしたいですか。
また、ご家族が同様の時、どこで過ごしてもらいたいか、あなたの考えをお聞かせください。
(あなたと、ご家族について、それぞれあてはまる番号1つに○)

あなた自身の高齢期の過ごし方の希望

「自宅で医療や介護を受けて過ごす」の割合が 36.1%と最も高く、次いで「特別養護老人ホームなどの介護保険の施設に入所して医療や介護を受けて過ごす」の割合が 25.1%となっています。

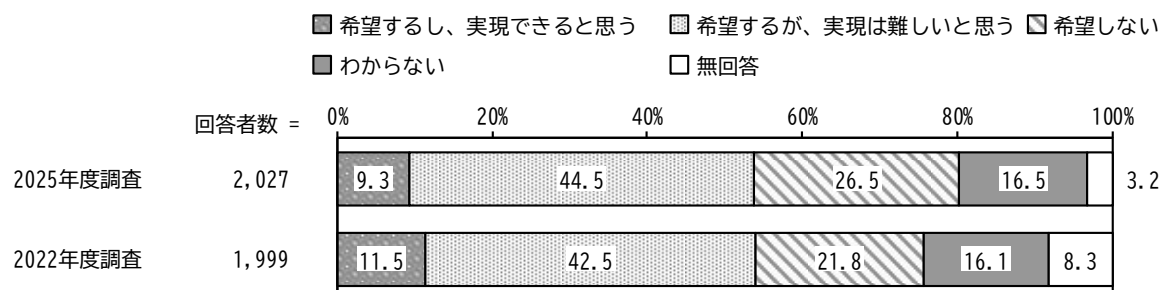
2022 年度調査と比較すると、「特別養護老人ホームなどの介護保険の施設に入所して医療や介護を受けて過ごす」の割合が増加しています。



問 70 あなた自身が、要介護度が重くなったり、仮に治る見込みがない状態となったとき、自宅（子どもの家や兄弟姉妹などの親族の家も含む）で最期まで過ごすことを希望しますか。また、実現可能だと思いますか。（○は1つ）

「希望するし、実現できると思う」の割合が 9.3%、「希望するが、実現は難しいと思う」の割合が 44.5%、「希望しない」の割合が 26.5%となっています。

2022 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

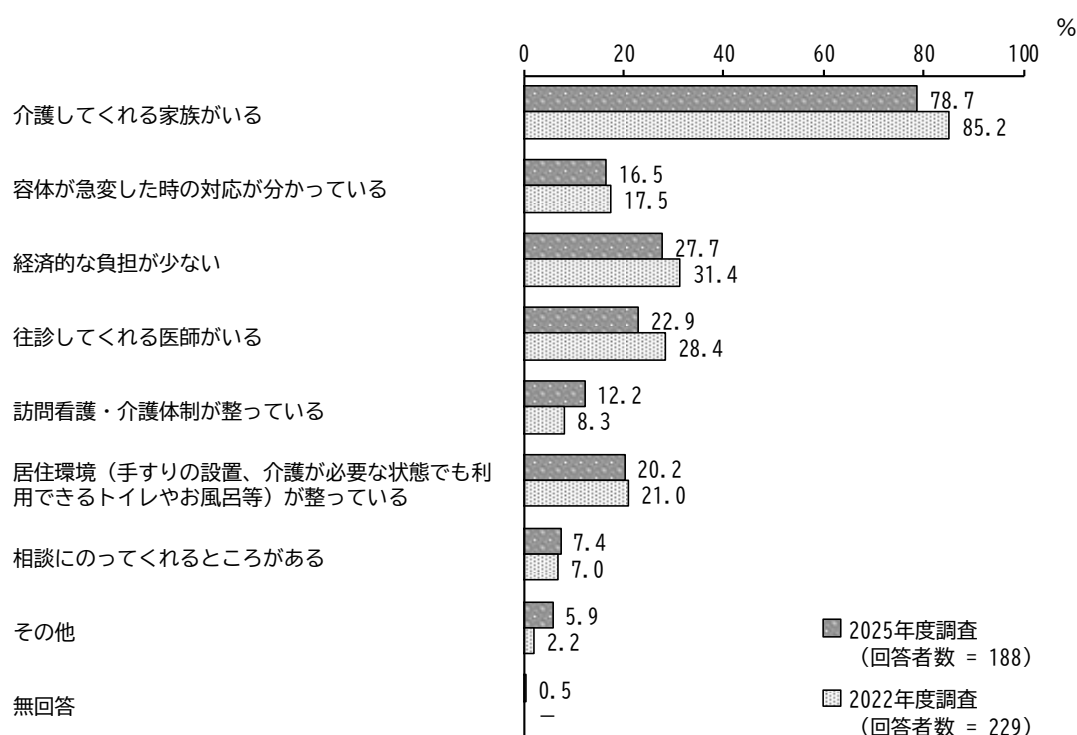


問 70 で「希望するし、実現できると思う」に○をつけた方におたずねします。

問 71 あなたが、自宅で最期まで過ごすことができると考える理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「介護してくれる家族がいる」の割合が 78.7%と最も高く、次いで「経済的な負担が少ない」の割合が 27.7%、「往診してくれる医師がいる」の割合が 22.9%となっています。

2022 年度調査と比較すると、「介護してくれる家族がいる」「往診してくれる医師がいる」の割合が減少しています。

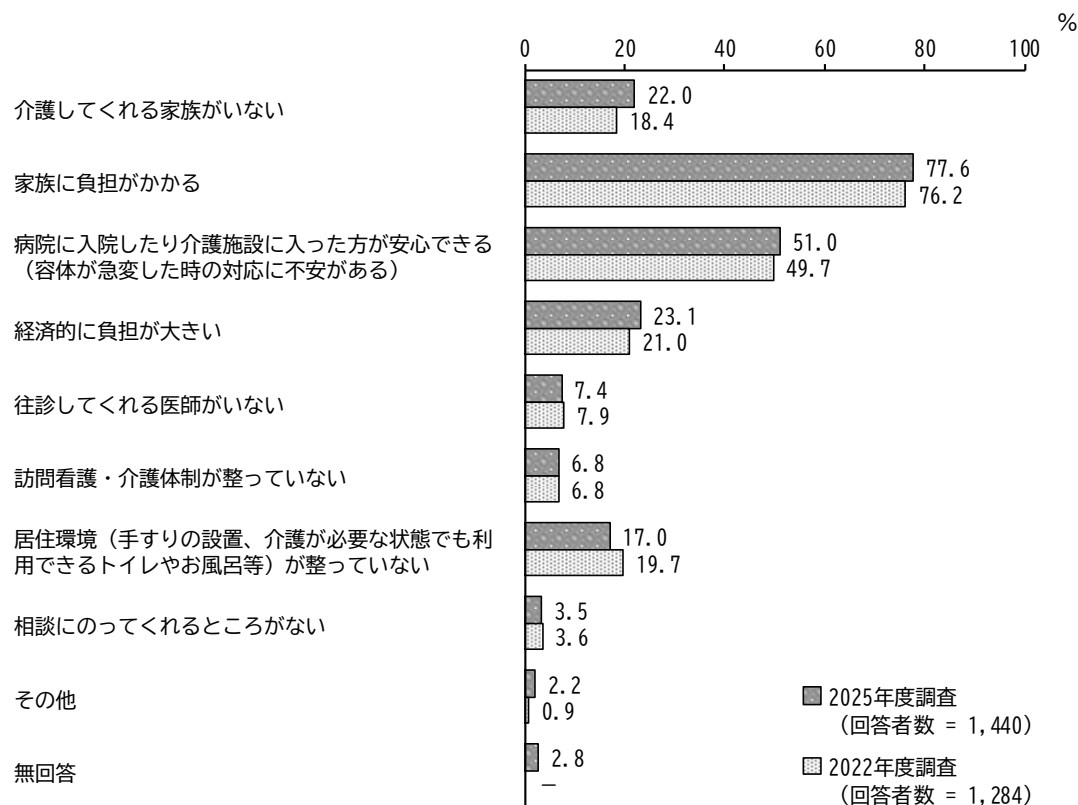


問 70 で「希望するが、実現は難しいと思う」また「希望しない」に○をつけた方におたずねします。

問 72 あなたが、自宅で過ごすことを希望しない、または過ごすことが難しいと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

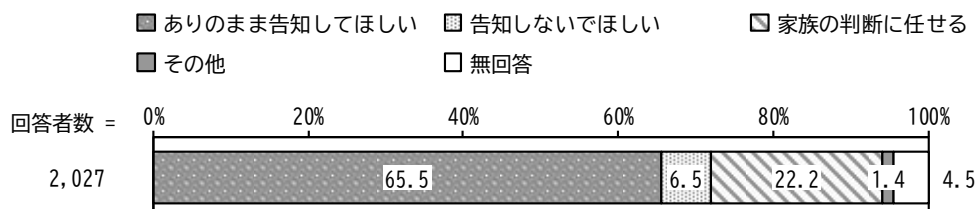
「家族に負担がかかる」の割合が 77.6%と最も高く、次いで「病院に入院したり介護施設に入った方が安心できる（容体が急変した時の対応に不安がある）」の割合が 51.0%、「経済的に負担が大きい」の割合が 23.1%となっています。

2022 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



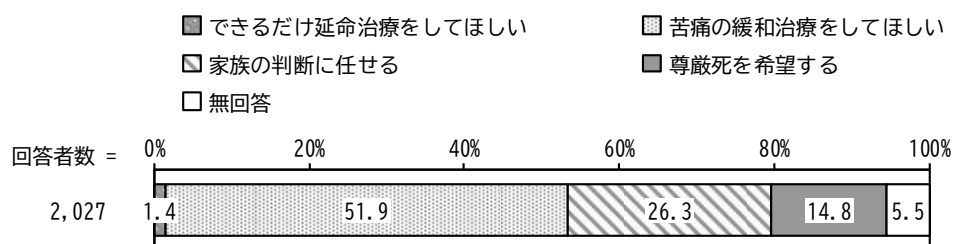
問 73 あなたは、病名・余命の告知についてどう考えていますか。(1つに○)

「ありのまま告知してほしい」の割合が 65.5%、「告知しないでほしい」の割合が 6.5%、「家族の判断に任せる」の割合が 22.2%となっています。



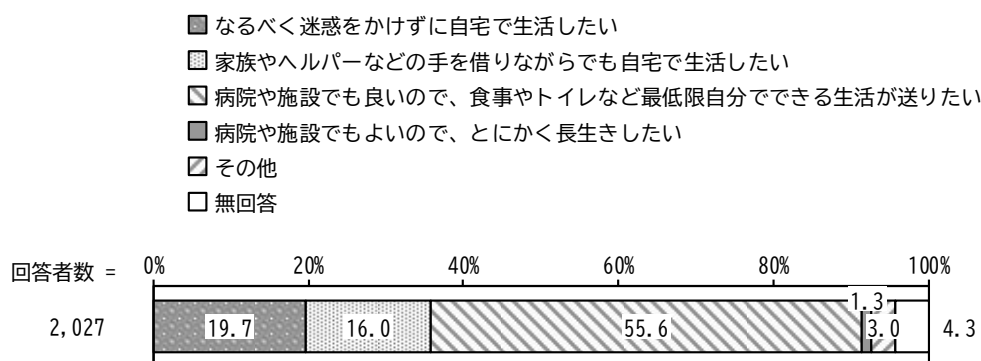
問 74 あなたは、延命治療・終末医療（痛みや苦痛の緩和）と尊厳死についてどう考えていますか。（1つに○）

「苦痛の緩和治療をしてほしい」の割合が 51.9%と最も高く、次いで「家族の判断に任せる」の割合が 26.3%、「尊厳死を希望する」の割合が 14.8%となっています。



問 75 あなたは、将来、認知症や脳の障害などで自分で判断できなくなったらどうしたいですか。（1つに○）

「病院や施設でも良いので、食事やトイレなど最低限自分でできる生活が送りたい」の割合が 55.6%と最も高く、次いで「なるべく迷惑をかけずに自宅で生活したい」の割合が 19.7%、「家族やヘルパーなどの手を借りながらも自宅で生活したい」の割合が 16.0%となっています。

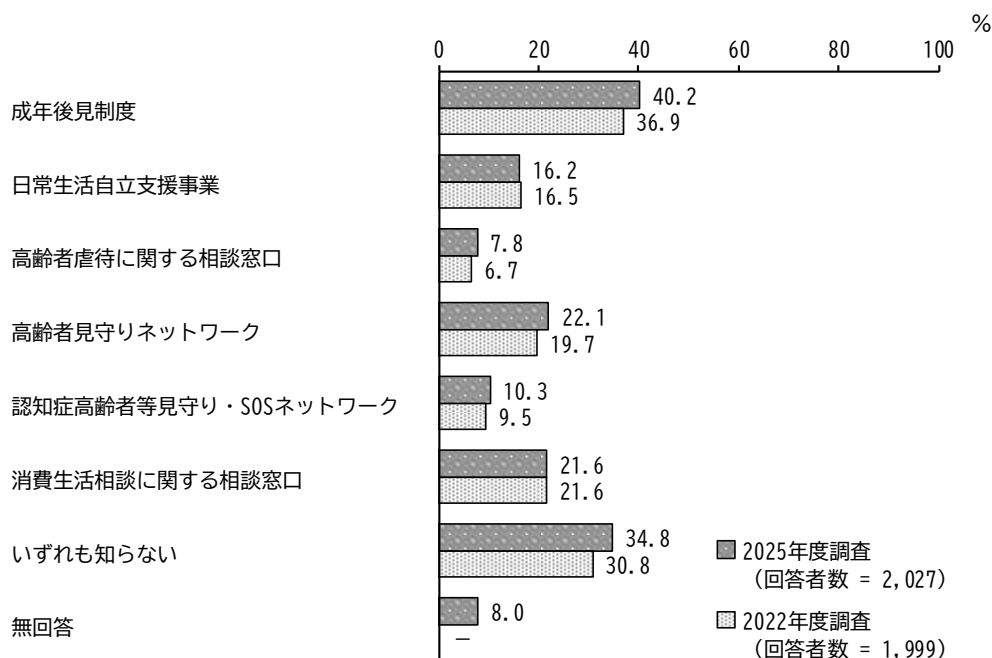


その他について

問 78 高齢者の権利や生活を守るために、以下のようなものがありますが、あなたがご存じのものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「成年後見制度」の割合が40.2%と最も高く、次いで「いずれも知らない」の割合が34.8%、「高齢者見守りネットワーク」の割合が22.1%となっています。

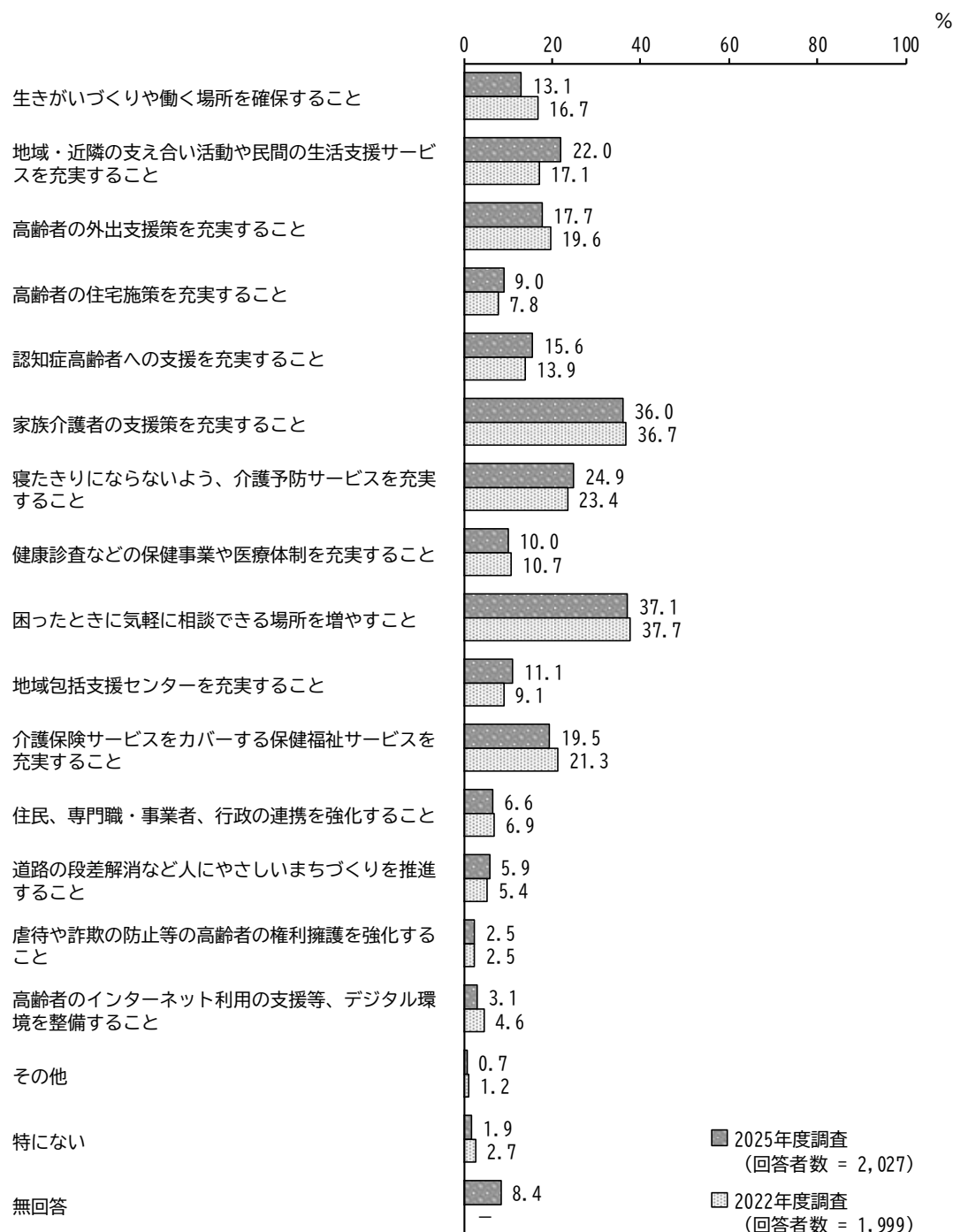
2022年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 81 そのほか、市が高齢者施策として取り組むものとして、次のうちどれを優先して充実すべきとお考えですか。（3つまでに○）

「困ったときに気軽に相談できる場所を増やすこと」の割合が 37.1%と最も高く、次いで「家族介護者の支援策を充実すること」の割合が 36.0%、「寝たきりにならないよう、介護予防サービスを充実すること」の割合が 24.9%となっています。

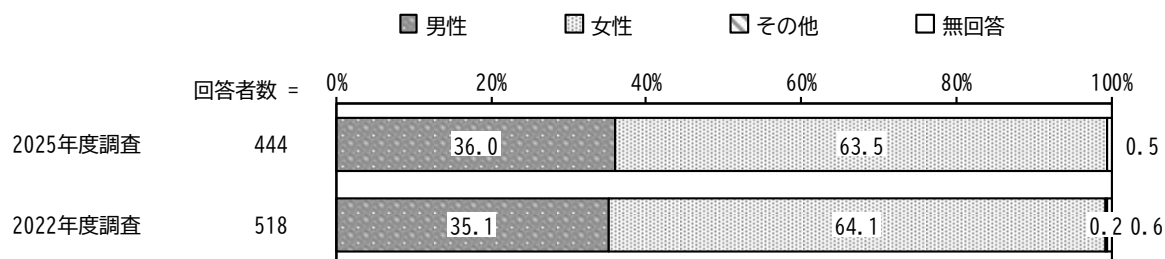
2022 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



2 介護・在宅医療意向調査

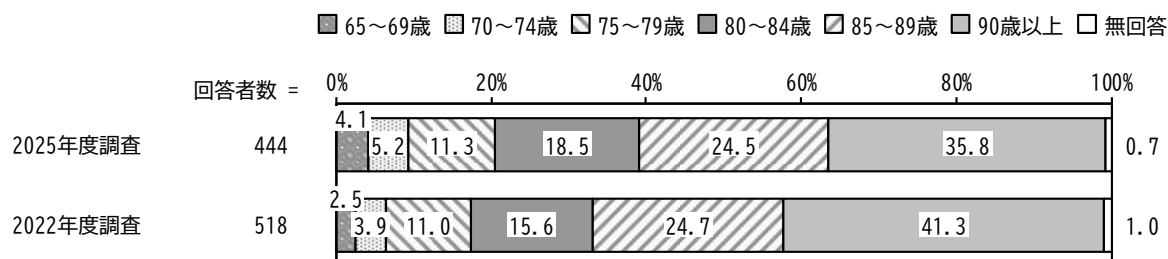
問1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

「男性」の割合が36.0%、「女性」の割合が63.5%となっています。
2022年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



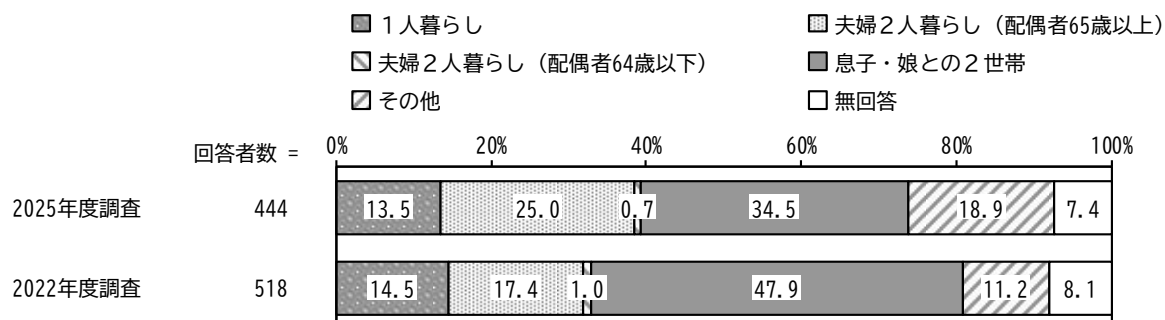
問2 あなたの年齢（2026年1月1日現在）をお答えください。(1つに○)

「90歳以上」の割合が35.8%と最も高く、次いで「85～89歳」の割合が24.5%、「80～84歳」の割合が18.5%となっています。
2022年度調査と比較すると、「90歳以上」の割合が減少しています。



問4 あなたの世帯の状況をお答えください。(1つに○)

「息子・娘との2世帯」の割合が34.5%と最も高く、次いで「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」の割合が25.0%、「1人暮らし」の割合が13.5%となっています。
2022年度調査と比較すると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」の割合が増加しています。一方、「息子・娘との2世帯」の割合が減少しています。

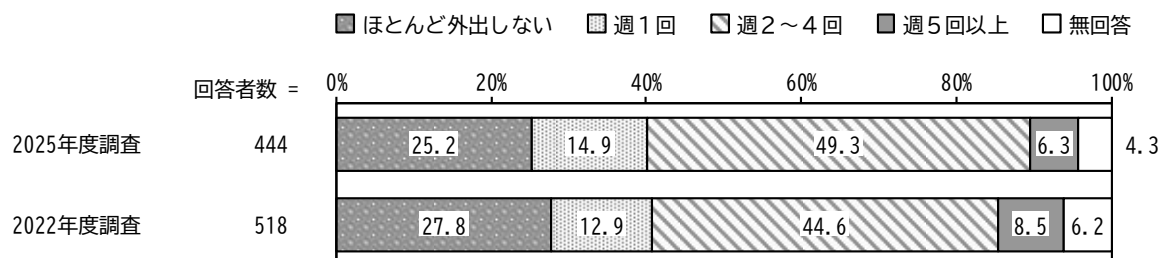


日ごろの生活について

問7 あなたは、週に1回以上は外出していますか。(1つに○)

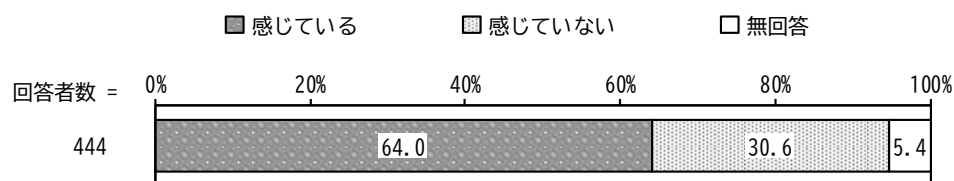
「週2～4回」の割合が49.3%と最も高く、次いで「ほとんど外出しない」の割合が25.2%、「週1回」の割合が14.9%となっています。

2022年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問11 あなたは、ご自宅からの移動に困難を感じていますか。(1つに○)

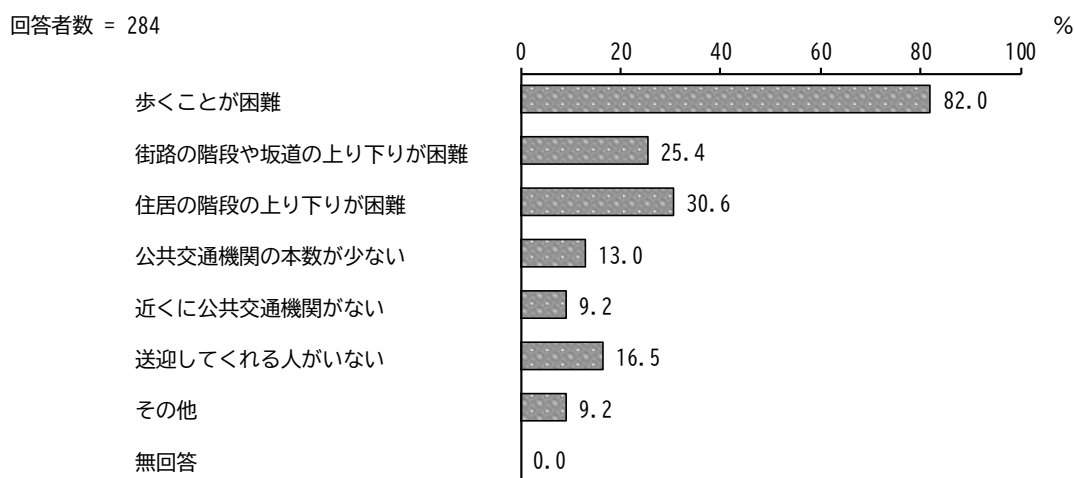
「感じている」の割合が64.0%、「感じていない」の割合が30.6%となっています。



問12は問11で「感じている」に○をつけた方におたずねします。

問12 移動に困難を感じている理由は何ですか(あてはまるものすべてに○)

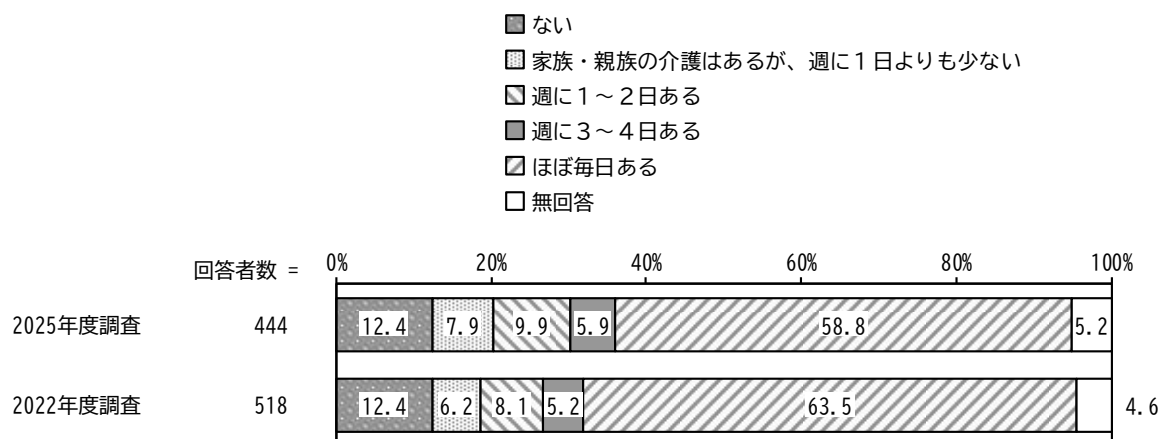
「歩くことが困難」の割合が82.0%と最も高く、次いで「住居の階段の上り下りが困難」の割合が30.6%、「街路の階段や坂道の上り下りが困難」の割合が25.4%となっています。



介護保険サービスや高齢者福祉サービスについて

問 21 あなたに対して、家族や親族からの介護・介助は、週にどのくらいありますか。同居していない子どもや親族等からの介護・介助も含みます。（1つに○）

「ほぼ毎日ある」の割合が 58.8%と最も高く、次いで「ない」の割合が 12.4%となっています。
2022 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

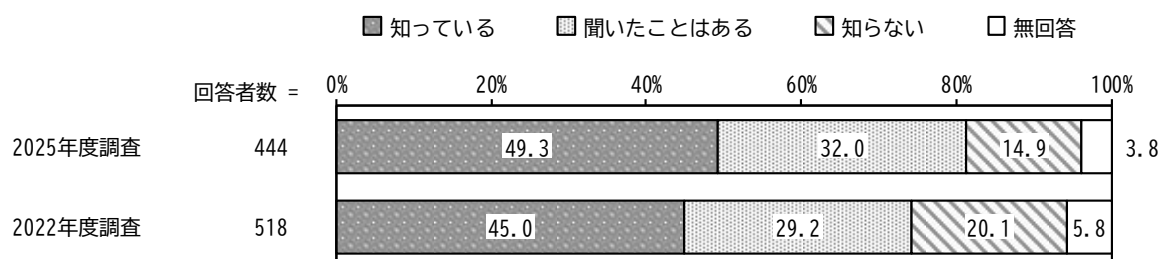


在宅医療について

問 22 あなたは、「在宅医療」について知っていますか。(1つに○)

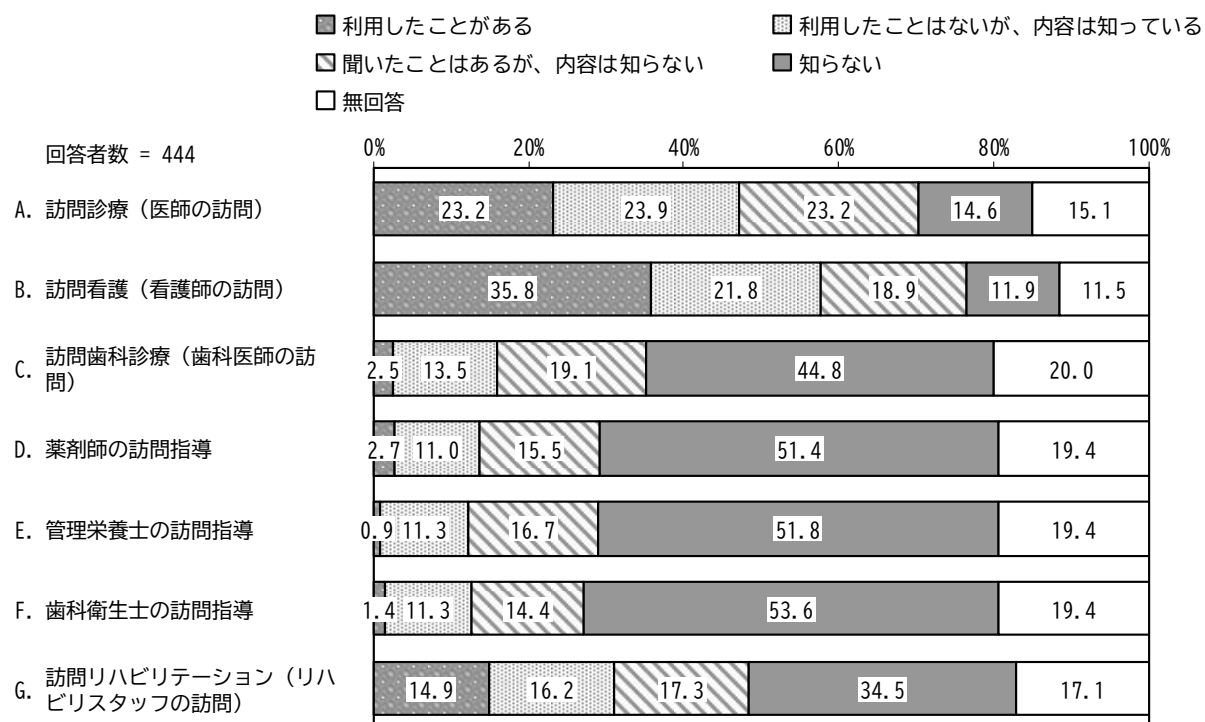
「知っている」の割合が 49.3%、「聞いたことはある」の割合が 32.0%、「知らない」の割合が 14.9% となっています。

2022 年度調査と比較すると、「知らない」の割合が減少しています。



問 23 あなたは、在宅医療を支える仕組みとして、以下のようなサービスがあることを知っていますか。また、あなたもしくはあなたの家族が利用されたことはありますか。(A～Gについて、それぞれ1つに○)

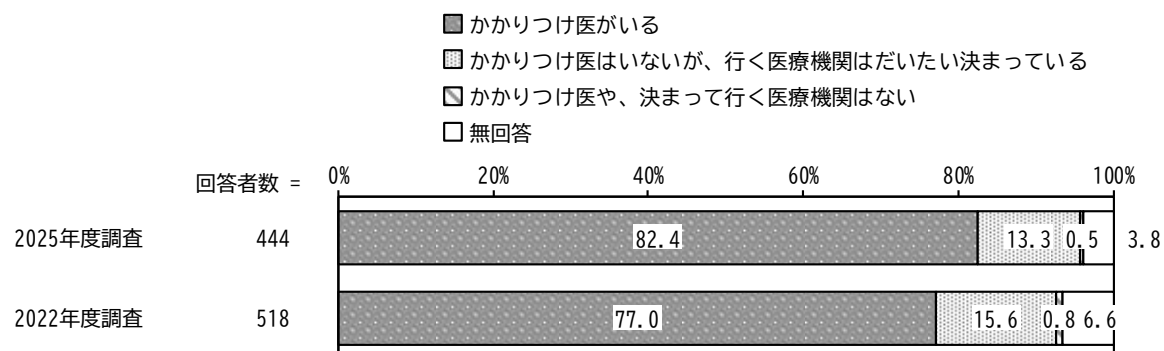
『B. 訪問看護（看護師の訪問）』で「利用したことがある」が、『A. 訪問診療（医師の訪問）』で「利用したことはないが、内容は知っている」「聞いたことはあるが、内容は知らない」が、『F. 歯科衛生士の訪問指導』で「知らない」が高くなっています。



問 25 あなたには、健康状態や病気のことを相談する身近な「かかりつけ医」がいますか。
(1つに○)

「かかりつけ医がいる」の割合が 82.4%、「かかりつけ医はいないが、行く医療機関はだいたい決まっている」の割合が 13.3%、「かかりつけ医や、決まって行く医療機関はない」の割合が 0.5%となっています。

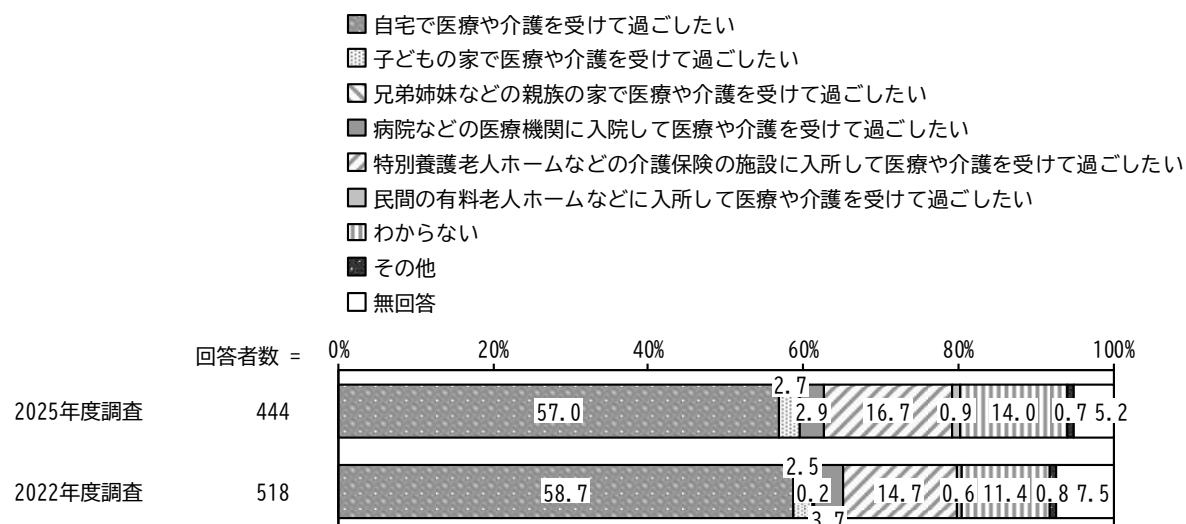
2022 年度調査と比較すると、「かかりつけ医がいる」の割合が増加しています。



問 28 あなたは、高齢期に、医療や介護が必要になった時、どこで過ごしたいですか。(1つに○)

「自宅で医療や介護を受けて過ごしたい」の割合が 57.0%と最も高く、次いで「特別養護老人ホームなどの介護保険の施設に入所して医療や介護を受けて過ごしたい」の割合が 16.7%となっています。

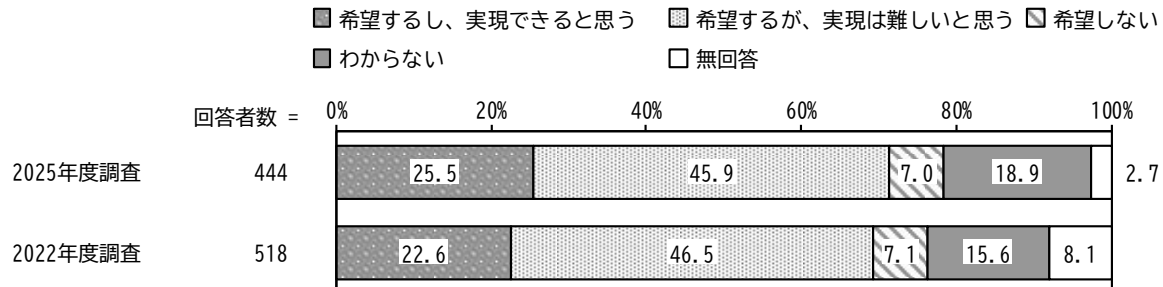
2022 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 29 あなた自身が、要介護度が重くなったり、仮に治る見込みがない状態となったとき、自宅（子どもの家や兄弟姉妹などの親族の家も含む）で最期まで過ごすことを希望しますか。また、実現可能だと思いますか？（1つに○）

「希望するし、実現できると思う」の割合が 25.5%、「希望するが、実現は難しいと思う」の割合が 45.9%、「希望しない」の割合が 7.0%となっています。

2022 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

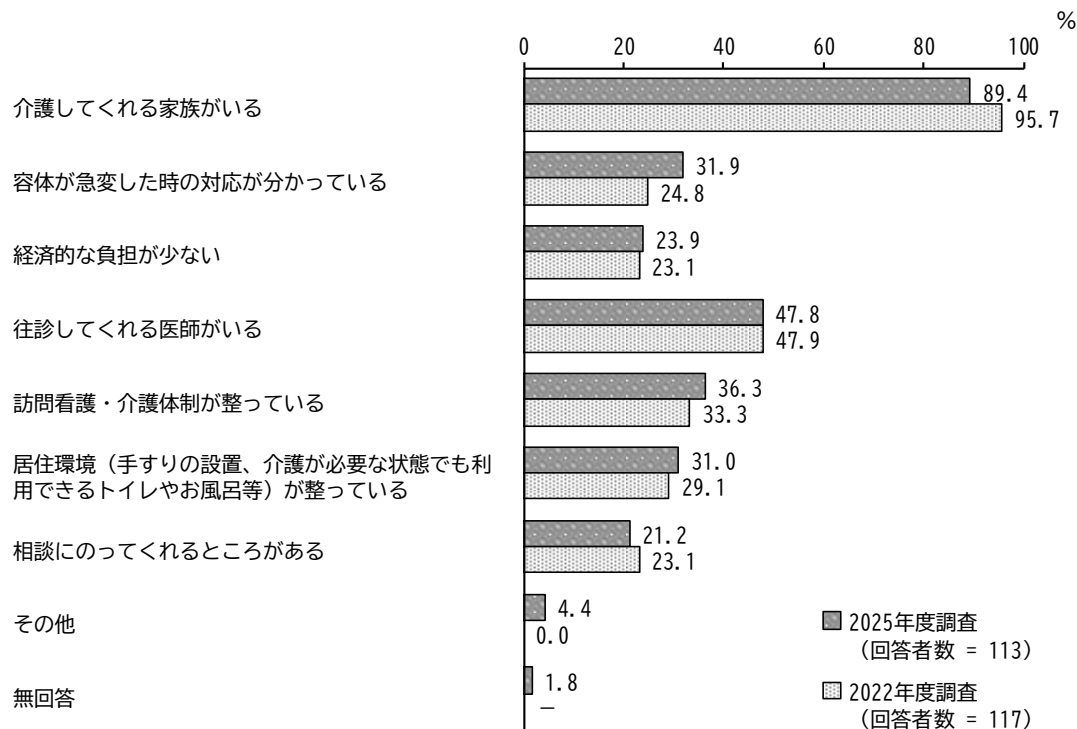


問 29 で、「希望するし、実現できると思う」に○をつけた方におたずねします。

問 30 あなたが、自宅で最期まで過ごすことができると考える理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「介護してくれる家族がいる」の割合が 89.4%と最も高く、次いで「往診してくれる医師がいる」の割合が 47.8%、「訪問看護・介護体制が整っている」の割合が 36.3%となっています。

2022 年度調査と比較すると、「容体が急変した時の対応が分かっている」の割合が増加しています。一方、「介護してくれる家族がいる」の割合が減少しています。

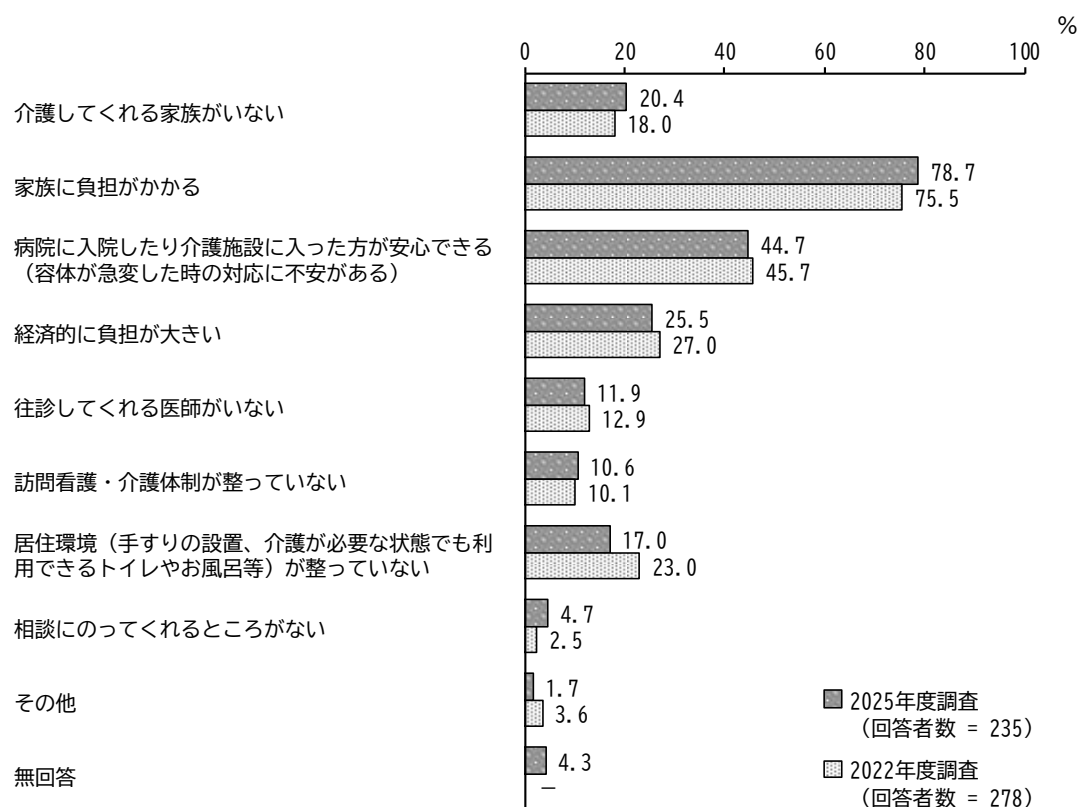


問 29 で、「希望するが、実現は難しいと思う」または「希望しない」に○をつけた方におたずねします。

問 31 あなたが、自宅で過ごすことを希望しない、または過ごすことが難しいと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

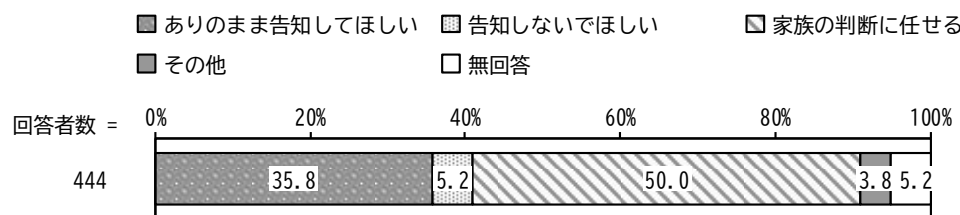
「家族に負担がかかる」の割合が 78.7%と最も高く、次いで「病院に入院したり介護施設に入った方が安心できる(容体が急変した時の対応に不安がある)」の割合が 44.7%、「経済的に負担が大きい」の割合が 25.5%となっています。

2022 年度調査と比較すると、「居住環境(手すりの設置、介護が必要な状態でも利用できるトイレやお風呂等)が整っていない」の割合が減少しています。



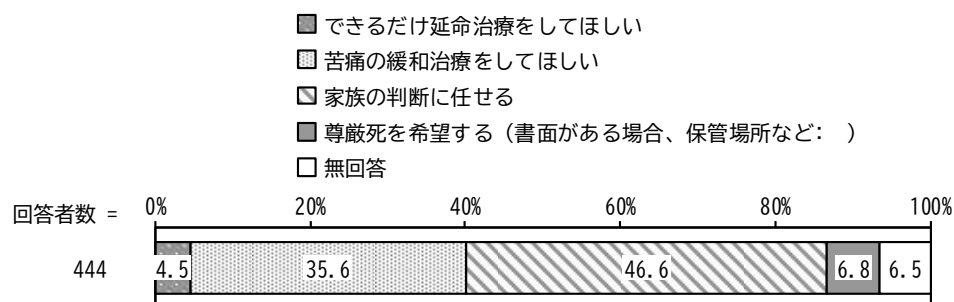
問 32 あなたは、病名・余命の告知についてどう考えていますか。(1つに○)

「ありのまま告知してほしい」の割合が 35.8%、「告知しないでほしい」の割合が 5.2%、「家族の判断に任せる」の割合が 50.0%となっています。



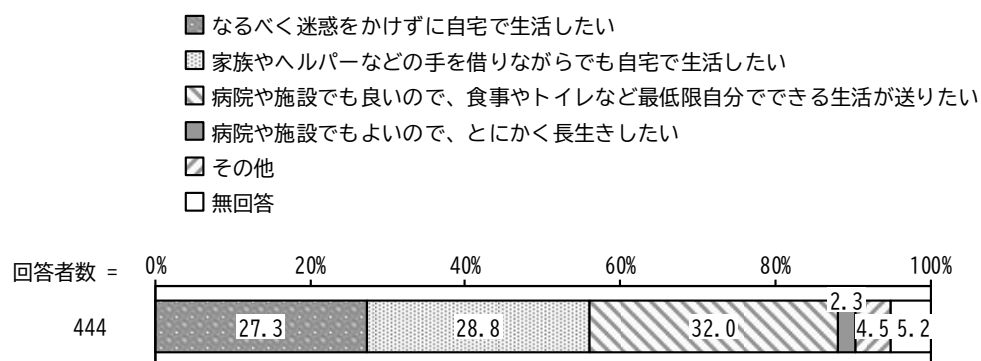
問 33 あなたは、延命治療・終末医療（痛みや苦痛の緩和）と尊厳死についてどう考えていますか。(1つに○)

「家族の判断に任せる」の割合が 46.6%と最も高く、次いで「苦痛の緩和治療をしてほしい」の割合が 35.6%となっています。



問 34 あなたは、将来、認知症や脳の障害などで自分で判断できなくなったらどうしたいですか。(1つに○)

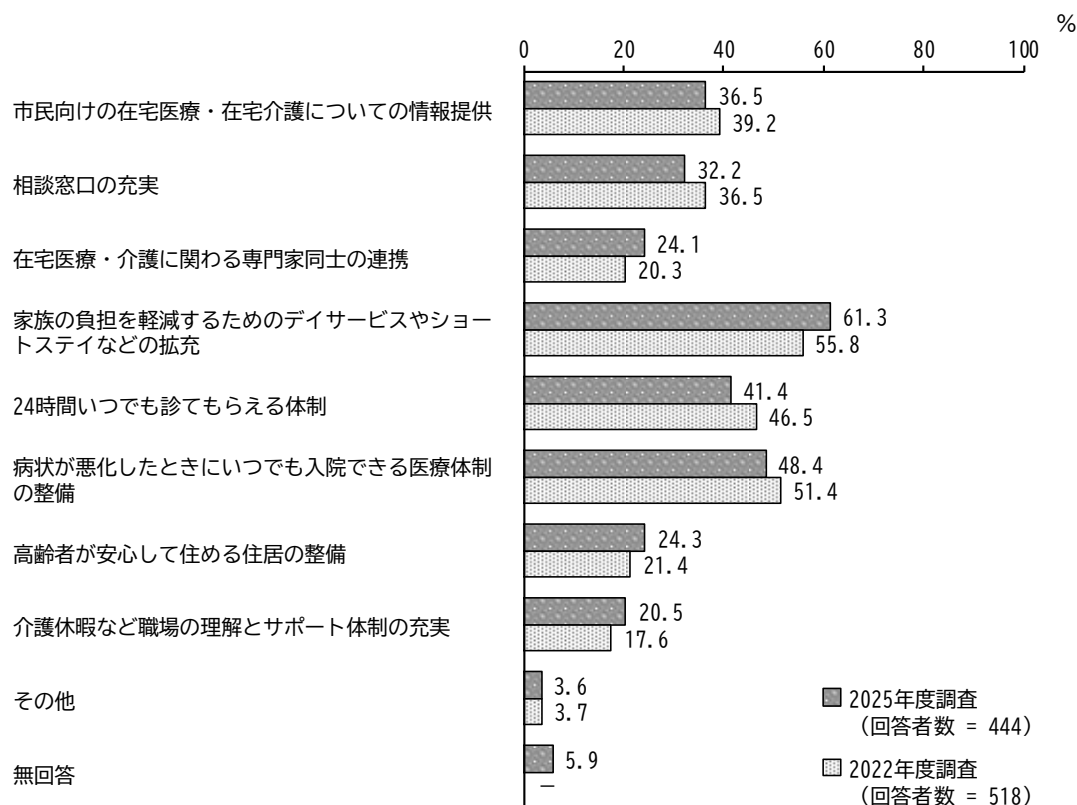
「病院や施設でも良いので、食事やトイレなど最低限自分でできる生活が送りたい」の割合が 32.0%と最も高く、次いで「家族やヘルパーなどの手を借りながらも自宅で生活したい」の割合が 28.8%、「なるべく迷惑をかけずに自宅で生活したい」の割合が 27.3%となっています。



問 35 今後、「在宅医療」や「在宅介護」が広く推進していくためには、どのようなことが必要と思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「家族の負担を軽減するためのデイサービスやショートステイなどの拡充」の割合が 61.3%と最も高く、次いで「病状が悪化したときにいつでも入院できる医療体制の整備」の割合が 48.4%、「24 時間いつでも診てもらえる体制」の割合が 41.4%となっています。

2022 年度調査と比較すると、「家族の負担を軽減するためのデイサービスやショートステイなどの拡充」の割合が増加しています。一方、「24 時間いつでも診てもらえる体制」の割合が減少しています。

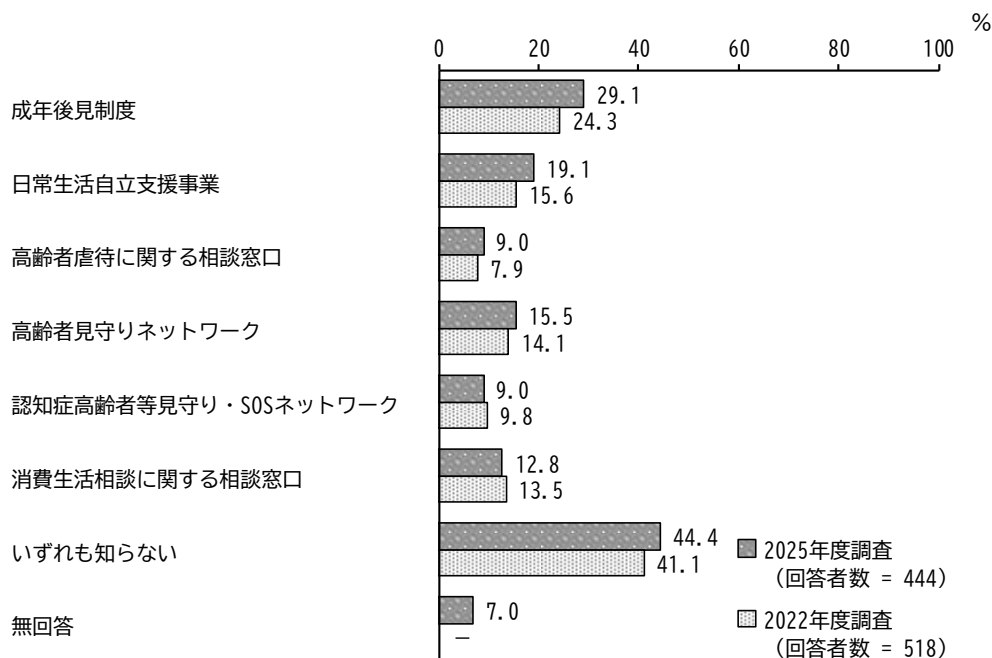


その他について

問 37 高齢者の権利や生活を守るために、以下のようなものがありますが、あなたがご存じのものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「いずれも知らない」の割合が44.4%と最も高く、次いで「成年後見制度」の割合が29.1%、「日常生活自立支援事業」の割合が19.1%となっています。

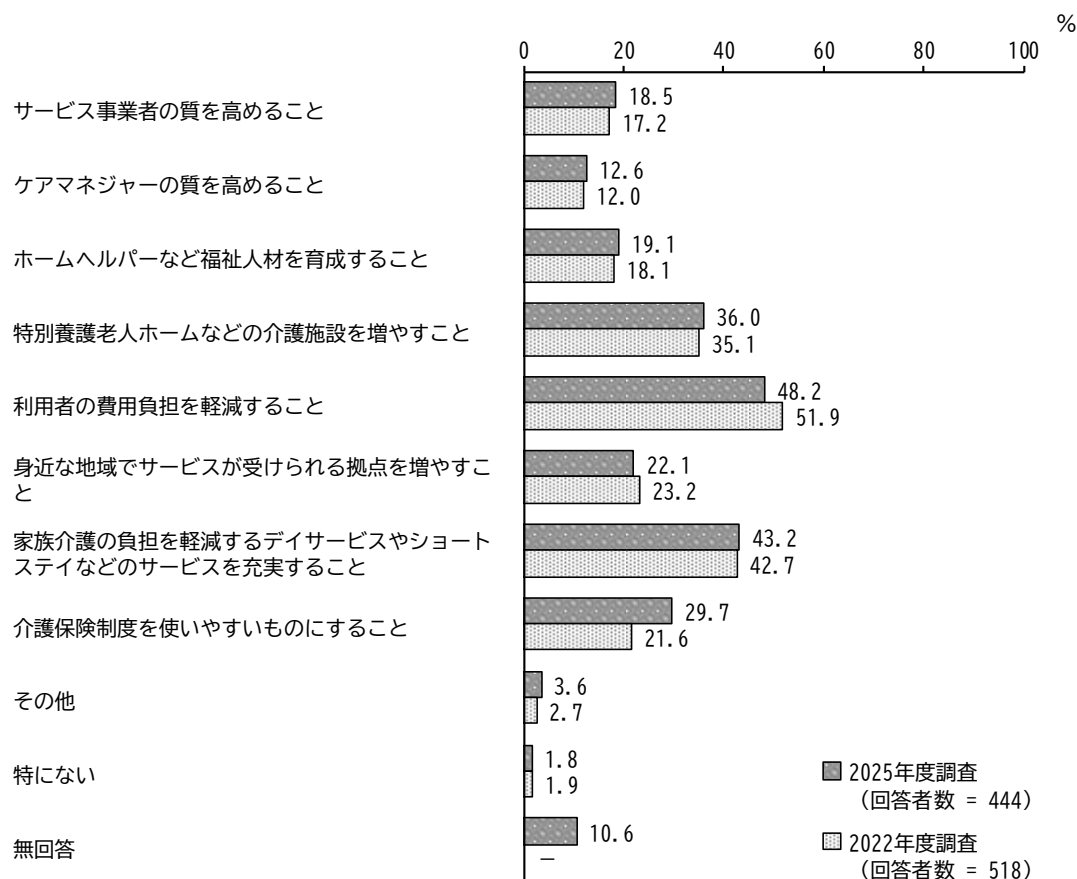
2022年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 45 「介護保険制度」全体をよりよくするために、市が力を入れるべきことは次のうちどれだと思いますか。（3つまでに○）

「利用者の費用負担を軽減すること」の割合が 48.2%と最も高く、次いで「家族介護の負担を軽減するデイサービスやショートステイなどのサービスを充実すること」の割合が 43.2%、「特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと」の割合が 36.0%となっています。

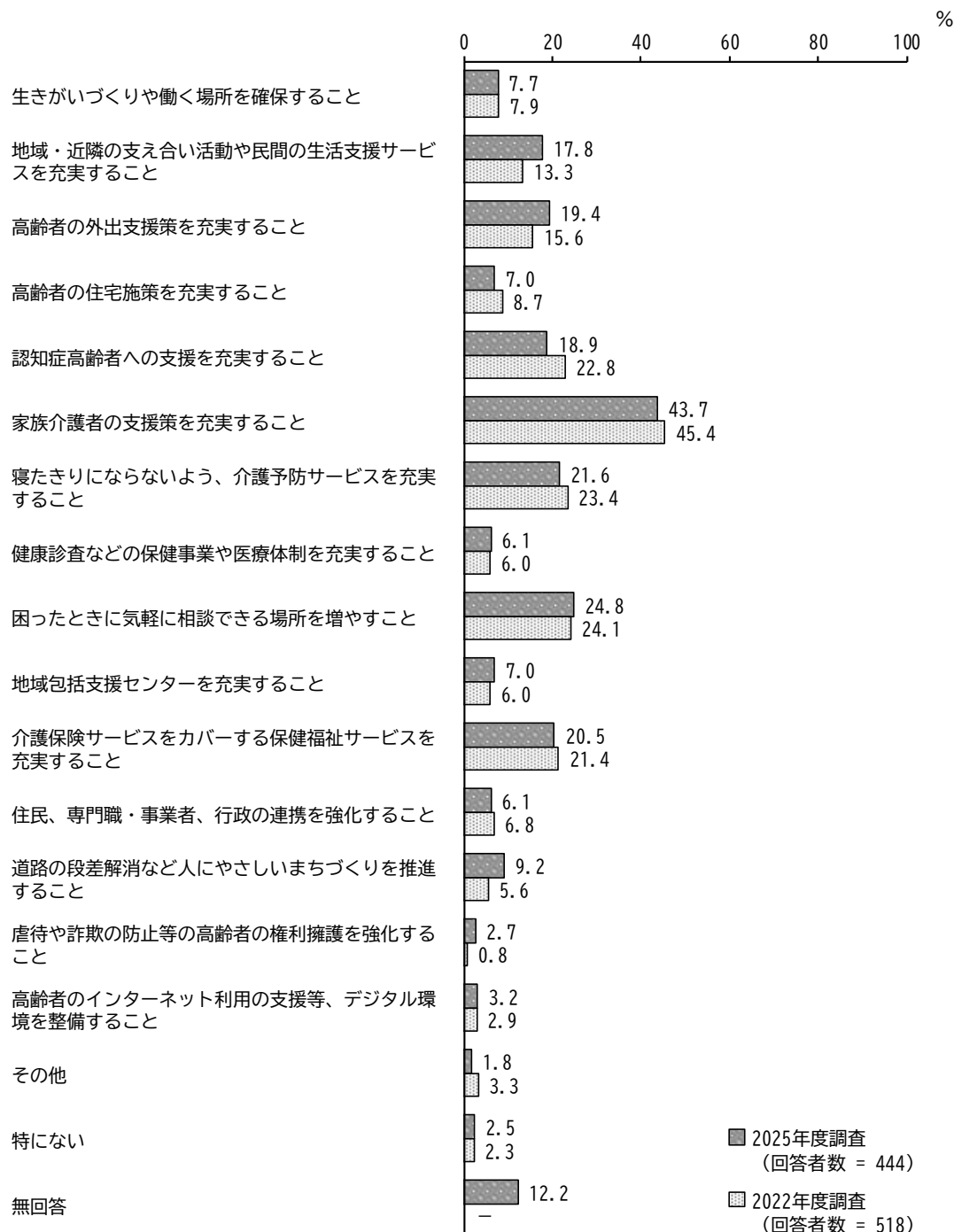
2022 年度調査と比較すると、「介護保険制度を使いやすいものにすること」の割合が増加しています。



問 46 そのほか、市が高齢者施策として取り組むものとして、次のうちどれを優先して充実すべきとお考えですか。（3つまでに○）

「家族介護者の支援策を充実すること」の割合が 43.7%と最も高く、次いで「困ったときに気軽に相談できる場所を増やすこと」の割合が 24.8%、「寝たきりにならないよう、介護予防サービスを充実すること」の割合が 21.6%となっています。

2022 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

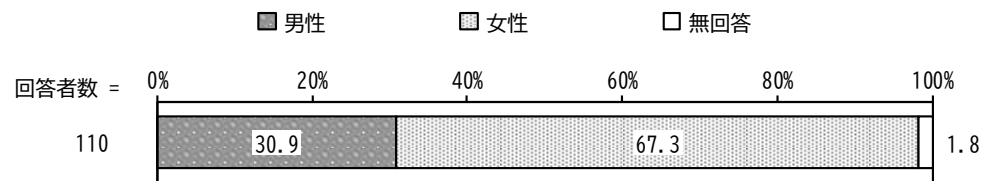


3 在宅介護実態調査

A票 認定調査員が、概況調査等と並行して記載する項目

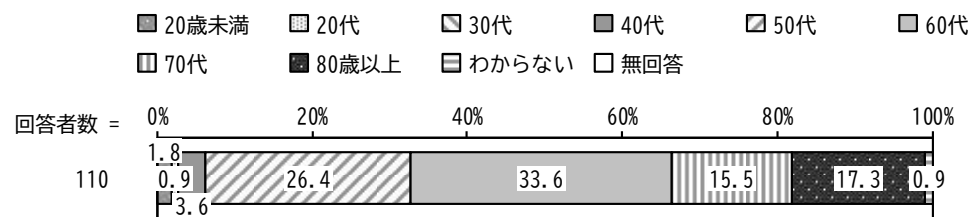
問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください（1つを選択）

「男性」の割合が 30.9%、「女性」の割合が 67.3%となっています。



問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（1つを選択）

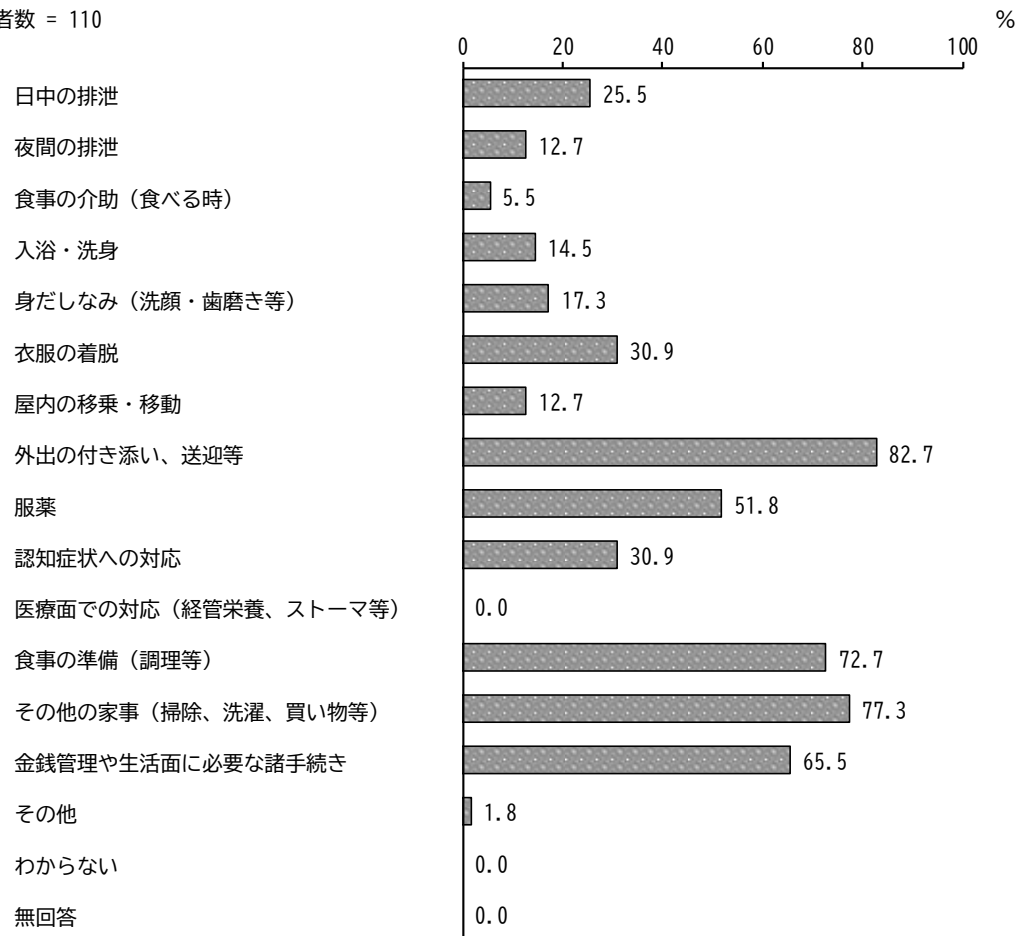
「60代」の割合が 33.6%と最も高く、次いで「50代」の割合が 26.4%、「80歳以上」の割合が 17.3%となっています。



問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（複数選択可）

「外出の付き添い、送迎等」の割合が 82.7%と最も高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が 77.3%、「食事の準備（調理等）」の割合が 72.7%となっています。

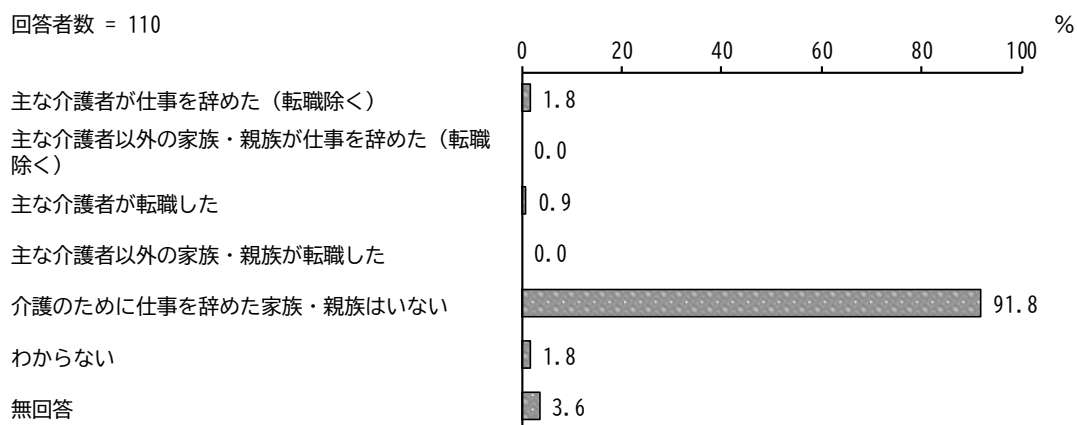
回答者数 = 110



問7 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）※自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が 91.8%と最も高くなっています。

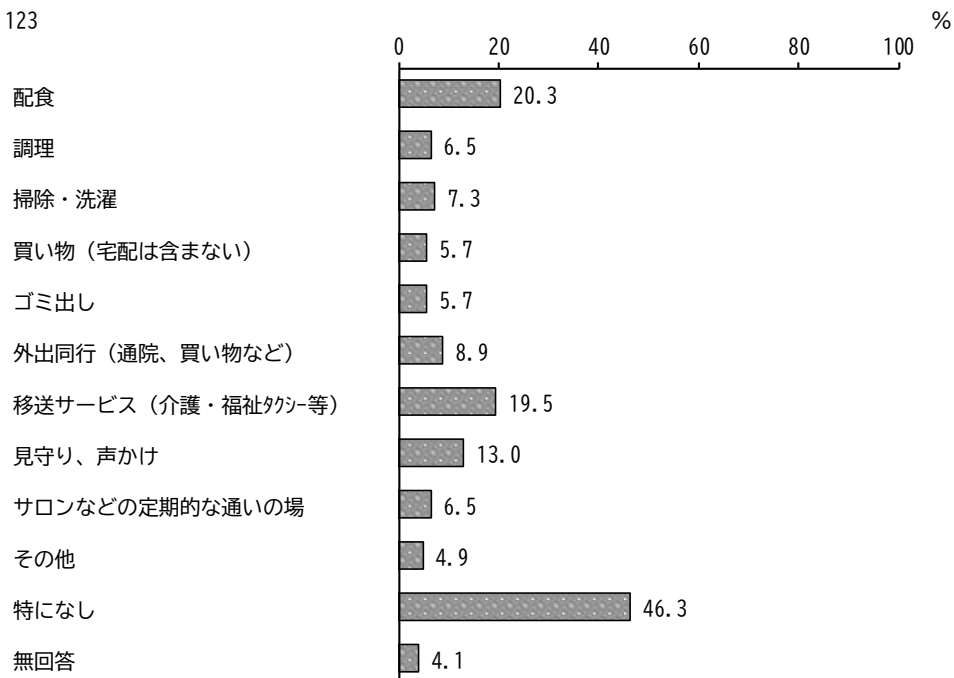
回答者数 = 110



問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（複数選択可）
※介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

「配食」の割合が 20.3%と最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が 19.5%、「見守り、声かけ」の割合が 13.0%となっています。

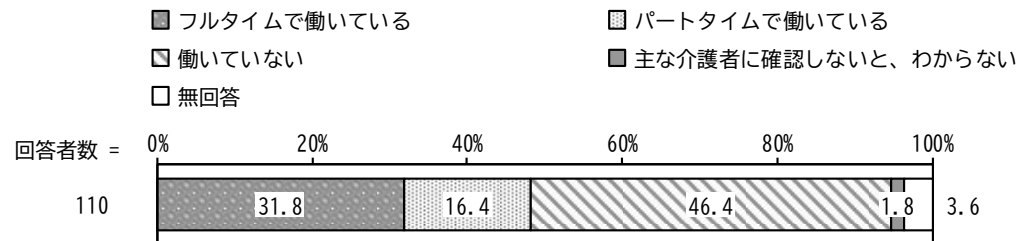
回答者数 = 123



B票 主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入頂く項目

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（1つを選択）

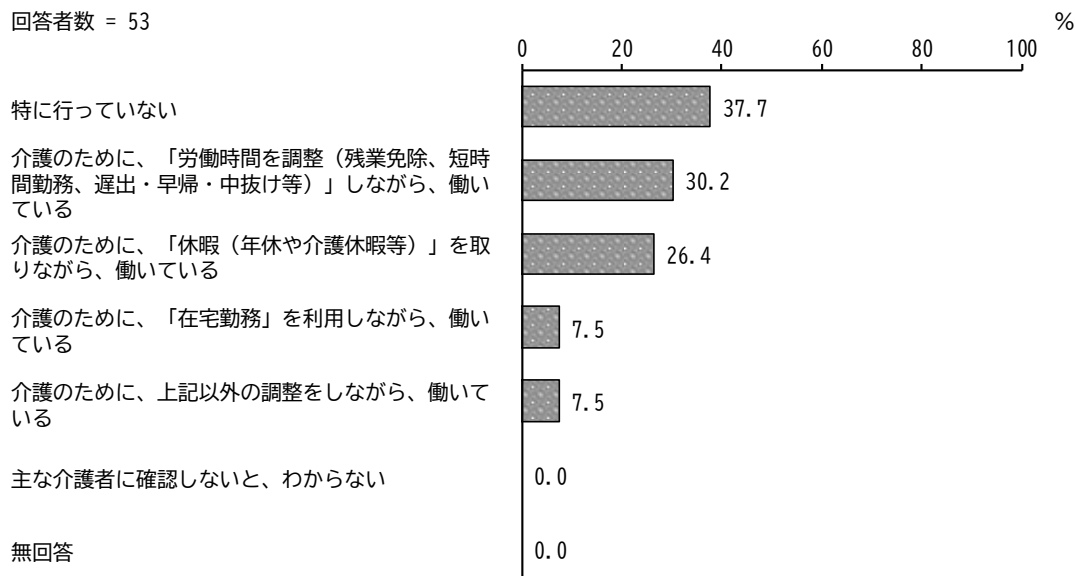
「フルタイムで働いている」の割合が31.8%、「パートタイムで働いている」の割合が16.4%、「働いていない」の割合が46.4%となっています。



問2 問1で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。

主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか（複数選択可）

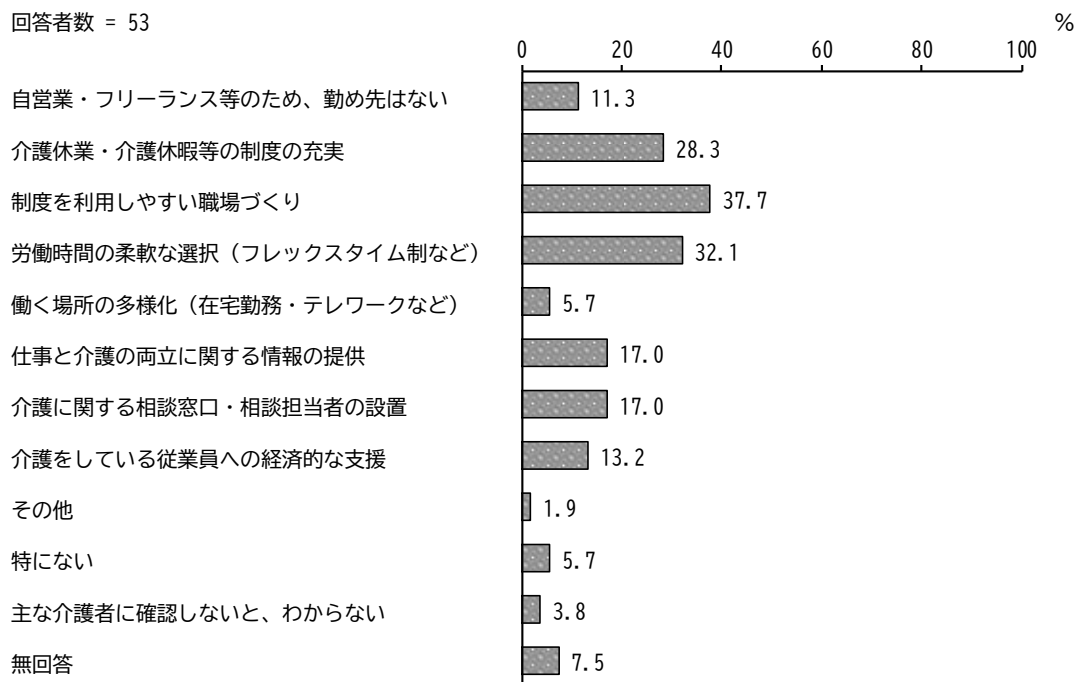
「特に行っていない」の割合が37.7%と最も高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が30.2%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」の割合が26.4%となっています。



問3 問1で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。
 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（3つまで選択可）

「制度を利用しやすい職場づくり」の割合が 37.7%と最も高く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」の割合が 32.1%、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が 28.3%となっています。

回答者数 = 53



問4 問1で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。
 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（1つを選択）

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が 50.9%と最も高く、次いで「問題なく、続けていける」の割合が 13.2%となっています。

